

高村武幸准教授自己紹介



主に中国の秦・漢時代を研究している高村武幸と申します。20世紀初頭から中国では文字を記した木や竹のふだ「簡牘」が多数発見されており、それらの多くが秦・漢・魏・晋時代のものです。有名な歴史書『史記』『漢書』などの記載と、これら二千年前の人々が記した簡牘の記載内容とを組み合わせながら、当時の制度・行政や、社会の様子を探っています。簡牘なんてどうも難しそうですが、実は大学受験の漢文を読む力と、普通の漢和辞典があればわりあい読み解けます。最近では、簡牘そのものを研究する「簡牘学」という、史料学の一つにも手を染めています。

梶山智史助教自己紹介



専門は中国中世史、特に五胡十六国・北朝時代の政治史・文化史。具体的には、北魏の崔鴻撰『十六国春秋』をはじめとする当該時代の編纂史料の成立過程・記載内容・歴史認識とその政治的背景について考察し、4～6世紀に華北を支配した北方民族系諸政権における歴史書編纂の意義について研究しています。また、近年新発見が相次いでいる墓誌にも注目しており、北朝・隋代の墓誌史料群の全体状況の把握に努めるとともに、墓誌文化の形成と展開について分析を進めています。

どうぞよろしく申し上げます！！